

キャベツ栽培暦

肥料・農薬・栽培指導なら
万来屋物産株式会社
TEL 0942-44-6101
携帯 080-1539-2270 担当 草場

作方	収穫期	播種時期・定植時期・収穫期												品種例
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
秋出	9月下旬～10月中旬						●	×		■				おきな、彩
初冬出	10月上旬～12月上旬							●	×		■			YR冬どり鈴
冬出	12月上旬～2月下旬	■							●	×			■	耐寒大御
晩出	2月下旬～3月下旬		■						●	×				冬のぼい
春出	3月下旬～4月下旬			■						●	×			金春、かん
初夏出	4月下旬～6月中旬					■					●		×	おきな、新:

判例: ● 播種 × 定植 ■ 収穫

1. 土作り

- 10a当たり、堆肥を1,000kg もしくは、自然の輪を200kg施し、深耕しましょう。
- 生わらをすき込む場合は、播種の2週間前までに石灰窒素を3袋～4袋散布して腐熟促進しましょう。
- 土壌pHは、6.5が一番良く、6.0以下になると生育が悪くなります。石灰、マグネシウム(苦土)の吸収量が多いので、必ず施用してください。
- 定植前後に排水溝を整備しましょう。連作する場合は、連作障害を起こしますので、プロミネン(粒)を90～150kg施用してください。

2. 土壌改良材施用例

堆肥1,000kg/10a 又は、自然の輪200kg/10a 生わらをすき込む場合は、石灰窒素を60kg/10a バイタリー(苦土生石灰)	バイタリー施用量例 (10a当たり)			
	pH 5.5前後	pH 6.0前後	pH 6.5前後	pH7.0
石灰窒素を使用する場合	100～120kg	60～80kg	40～60kg	40
石灰窒素を使用しない場合	100～160kg	80～140kg	60～120kg	60

★土壌の状態がわからない場合は、土壌検査を行いましょ！

3. 元肥施用例

作方	目標収量 (t/10a)	基準施肥量(kg/10a)			元肥施肥量(kg/10a)			追肥1施肥量(kg/10a)			追肥2施肥量(kg/10a)		
		N	P	K	N	P	K	N	P	K	N	P	K
秋出	6	27	22	23	17	22	16	10	0	7	0	0	0
初冬出	6	27	22	23	17	22	16	10	0	7	0	0	0
冬出	7	37	19	24	19	19	13	7	0	7	11	0	4
晩出	7	37	19	24	19	19	13	7	0	7	11	0	4
春出	4	22	17	23	14	17	13	3	0	4	5	0	6
初夏出	4	22	17	23	14	17	13	3	0	4	5	0	6

4. 施肥量

作方	普通型					
	元肥	袋数	追肥1	袋数	追肥2	袋数
秋出	野菜専用322	6～7	追肥716 ニトロパワー503 過燐硝安マジョリカブルー のいずれか	2.5～3	追肥716 ニトロパワー503 過燐硝安マジョリカブルー のいずれか	
初冬出						
冬出	野菜専用322	7～7.5	追肥716 ニトロパワー503 過燐硝安マジョリカブルー のいずれか	2～2.5	追肥716 ニトロパワー503 過燐硝安マジョリカブルー のいずれか	
晩出						
春出	野菜専用322	5～6	追肥716 ニトロパワー503 過燐硝安マジョリカブルー のいずれか	1～2	追肥716 ニトロパワー503 過燐硝安マジョリカブルー のいずれか	
初夏出						

追肥は、播種時期や生育を考慮して行ってください。

作方	追肥時期1	追肥時期2
秋出・初冬出	結球開始直前	—
冬出・晩出・春出・初夏出	定植20～25日後	結球開始直前

追肥肥料名	硝安率	使用時期
ニトロパワー503	高	厳寒期
過燐硝安マジョリカブルー	中	
追肥716	低	通常

【留意点】

- 秋出、初冬出の追肥は、結球開始直前に行ってください。
- 冬出、晩出、春出、初夏出の追肥は、1回目を定植20～25日後、2回目は、結球開始直前に行ってください。
- 12月～2月の低温期は、硝酸体窒素を含む肥料をおすすめします。通常の追肥では、効きが鈍く、結球しにくいことがあります。
- なんぷ病の発生が多い圃場は、多肥状態にしないようにしてください。
- 省力型は、作方により肥料を変えてください。
- 普通型、省力型の施肥については、圃場により増減してください。

5. 除草剤

農薬名	効果雑草	使用量(10a)	使用時期	備考
ラッソー乳剤	1年生雑草	150～200ml	定植後～雑草発生前(但し:定植後8日以内まで)	
アグロマックス水和剤	1年生雑草(キク・カヤ科を除く)	200～300g	定植後～雑草発生前(但し:定植14日以内まで)	
フィールドスター	1年生雑草(アカザ・アブラナ科を除く)	75～150ml	定植後～雑草発生前(但し:定植10日以内まで)	

※ラベルをよく読み、使用時期、使用回数、使用方法を確認して使用しましょう！

根こぶ病対策

アブラナ科野菜やキャベツを連作していると、根こぶ病が発生するようになります。根こぶ病が出ないように、また、出ってしまった場合の対処法

物理的予防方法	使用資材	予防原理
pHを上げる	バイタリー	土壌pHを測り、バイタリーを投入しpHを上げましょう。pH7.3以上になると、発生を抑えることができます。
有機物の投入	プロミネン(粒)	大豆粕菌体肥料を投入すると、有機物である大豆粕と根粒菌の働きで、発生を抑えることができます。
有効菌体の投入・増殖	アグリ20	アグリ20を苗、土壌に散布することによって、土壌の放線菌を増やし、根こぶ病の発生を抑えてくれます。

薬剤防除	使用量	使用時期	使用方法
ランマンフロアブル	500倍液	移植前日～当日	セル成型育苗トレイ1箱または $\text{P}^{-}\text{H}^{-}\text{P}^{-}$ ポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～7L)当
フィールドキーパー水和剤	200倍液	播種時	セル成型育苗トレイ1箱または $\text{P}^{-}\text{H}^{-}\text{P}^{-}$ ポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～5L)当
ネビジン顆粒水和剤	200g/100L	定植前	全面散布後土壌混和
オラクル粉剤	20～30kg	定植前	全面散布後土壌混和

※用法用量を守り、空き容器は、適切に処理しましょう。

時
|
|
| 里
| 帛秋
| 所
| 小
| ろく
| 若夏

前後
kg
kg

■
|
|
|

■
|
|
|
| 2L
| 2L
|

